

令和元年度 S I P 第 2 期課題評価の考え方について
(スマート物流サービスを除く 11 課題について)

令和 2 年 2 月 27 日
ガバニングボード決定

令和元年度 S I P 第 2 期課題評価については、平成 30 年度課題評価における評価基準・評価項目との整合性及び継続性を確保するため、平成 30 年度課題評価で採用した 7 段階 (S、AA、A+、A、A-、B+、B) 評価を引き続き採用し、評価結果は、各研究開発計画の見直し、次年度以降の予算配分、に厳格に反映させることとした。

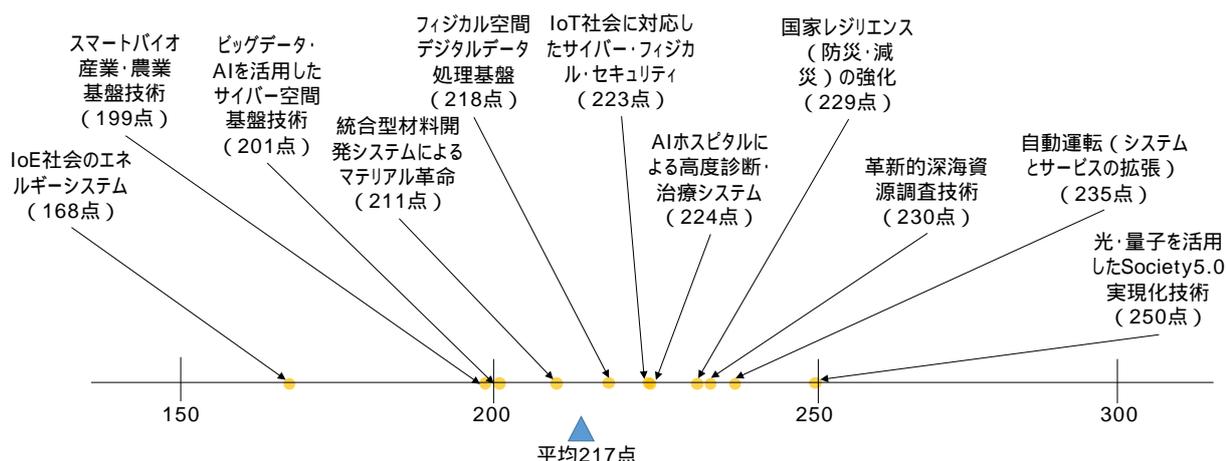
また、S I P 第 2 期の 2 年目となる令和元年度の課題評価においては、課題目標の達成に向けた工程上の進捗状況 (当該進捗状況に至る理由を含む。)を重点的に評価するため、「達成度」の評価項目を複数の視点に分割して評価するとともに、社会実装・出口戦略へ誘導するための課題マネジメントにおける重要な視点として、「国際的な取組・情報発信」を評価の新たな視点 (評価項目) として追加、マッチングファンドの獲得状況を評価し、その多少に応じた加算、「課題間連携」については、課題間で合意した具体的連携内容のあるものについて評価の対象とした。

令和元年度 S I P 第 2 期課題評価においては、研究開発が本格化している 11 課題については、評価の手順として、2 年目における評価項目に係る各課題の進捗状況が、各 7 段階のどの標語に該当するかを決定している。

具体的には、「課題評価のランク付け」及び「次年度予算への反映」について、課題評価WGにおける課題評価結果を基に第 86 回戦略的イノベーション創造プログラム (S I P) ガバニングボード (平成 30 年 8 月 2 日) 決定に定める標語への適合性を決定したものである (別添参照)。

「課題評価のランク付け」及び「次年度予算への反映」方針

1. 課題評価WGの採点結果



2. 第2期課題評価のランク付け

第86回戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)ガバニングボード(平成30年8月2日)決定に定める「第2期課題評価のランク付け」に基づく評価と標語に対し、満点350点に対する得点率をもって7段階のランクの閾値(平均217点(得点率60%)をAの中心点とし、±10%の点をそれぞれAの上限及び下限)とした。

評価	標語	ランク付け (得点率)
S	極めて挑戦的な高度な目標を達成し、実用化・事業化も十分見込まれており、想定を大幅に上回る成果が得られている。	315(90%) S
AA	適切に設定された目標を大幅に達成しており、実用化・事業化も十分見込まれており、想定以上の成果が得られている。	280(80%) AA < 315(90%)
A+	適切に設定された目標を達成しており、実用化・事業化も十分見込まれるなど、想定以上の成果が得られている。	245(70%) A+ < 280(80%)

A	目標の設定・達成ともに概ね適切であるなど、当初予定どおりの成果が得られている。	175(50%) A < 245(70%)
A -	目標の設定又はその達成状況が十分ではないなど、予定を下回る成果となっている。	140(40%) A - < 175(50%)
B +	目標の設定又はその達成状況が極めて不十分で、予定を大幅に下回る成果となっている。	105(30%) B + < 140(40%)
B	目標の設定、その達成状況その他大きな改善を要する面がみられる。	B < 105(30%)

3. 次年度予算への反映

第 86 回戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) ガバニングボード(平成 30 年 8 月 2 日)決定に定める「次年度予算への反映」に基づき、前項のランク付けを踏まえ、評価に対する前年度当初予算比を決定する。

評価	前年度当初予算比	課題評価結果を踏まえた 前年度当初予算比
S	+ 50%以下	(該当なし)
AA	+ 30%以下	(該当なし)
A +	+ 10%以下	「光・量子を活用した Society 5.0 実現化技術」は、+ 5%とする。
A	0%以下	「自動運転(システムとサービスの拡張)」以下 7 課題は、± 0%とする。 「ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」及び「スマートバイオ産業・農業基盤技術」は、- 5%とする。
A -	10%以下	「I o E 社会のエネルギーシステム」は、- 10%とする。
B +	30%以下	(該当なし)
B	事業中止を検討	(該当なし)

なお、上記の次年度予算は政府予算成立をもって確定するものであるため、政府予算成立を仮定し検討するものである。

(参考) 課題評価結果

「光・量子を活用したSociety5.0実現化技術」の次年度予算への反映は、当該指摘事項「「フォトリソグラフィ技術については、実用化・事業化が十分見込まれるものの、その他については実用化・事業化が十分見込めるとは言えない。」等の指摘があったことも踏まえ、増額幅は5%とすべき」の結論を踏まえ、+5%とする。

「I・O・E社会のエネルギーシステム」の次年度予算への反映は、当該指摘事項「PDによる研究開発テーマの絞り込み、重点化を促す観点から「I・O・E社会のエネルギーシステム」については10%予算を削減すべき」の結論を踏まえ、-10%とする。

「ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」及び「スマートバイオ産業・農業基盤技術」の次年度予算への反映は、当該指摘事項「PDによる研究開発テーマの絞り込み、重点化を促す観点から評価委員の点数が相対的に低い「ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」及び「スマートバイオ産業・農業基盤技術」については5%予算を削減すべき」の結論を踏まえ、-5%とする。

(参考) 課題評価 WG における審査の視点と配点

(1) 課題目標の達成度(技術・産業面・社会的目標、知財等)(満点 170 点)

審査の視点	配点
研究成果の新規性・実用性	10
国際競争力	10
研究成果で期待される波及効果	10
達成度(1)	40
達成度(2)	40
達成度(3)	40
成果の対外的発信	10
国際的な取組・情報発信	10

(2) 課題マネジメント(計画、実施、リソース、連携等)(満点 180 点)

審査の視点	配点
ア) 研究開発計画	-
Society5.0 の実現を目指すもの。	5
生産性革命が必要な分野に重点を置いていること。	5
単なる研究開発だけではなく社会変革をもたらすものであること。	5
社会的課題の解決や日本経済・産業競争力にとって重要な分野。	5
事業化、実用化、社会実装に向けた出口戦略が明確(5 年後の事業化等の内容が明確。誰がどのように社会実装するかが明確か。)	20
知財戦略、国際標準化、規制改革等の制度面の出口戦略を有していること。	20
府省連携が不可欠な分野横断的な取り組みであること。(単なるプロジェクトの寄せ集めではないか。各プロジェクト間の関係性やシナジーは十分に確保されているか。)	10
基礎研究から事業化・実用化までを見据えた一貫通貫の研究開発(期間、予算規模及び実施体制の中で、実現不可能な計画になっていないか。)	10
「協調領域」を設定し「競争領域」と峻別して推進(オープン・クローズ戦略を有していること。)	5
産学官連携体制の構築、研究開発の成果を参加企業が実用化・事業化につなげる仕組みやマッチングファンドの要素をビルトイン。	20
イ) 実施体制	-
課題推進上の適切な実施体制が構築されているか。	20
ウ) SIP の特徴	-
民間から適切な負担を求めているか。官民の役割分担が適切になされているか。(本来民間でやるべきものに国費(SIP 予算)を投じていないか。)	10
マッチング額が十分に計上されているか。	20
SIP 第 2 期で実施する他の課題との連携が適切に図られているか。	5
エ) その他	-
上記のア)～ウ)以外に、マネジメントの観点から評価すべきこと(プラス評価になること)があれば追加可。 (研究テーマの絞り込みや追加のマネジメントが適切かなど。)	20